

ACC022-04

会場:展示ホール7別室1

時間: 5月28日14:30-14:45

Repeat photographyによる氷床末端変動検出の試み

A study for detecting the temporal change at ice sheet terminal

齊藤 隆志^{1*}

Takashi Saito^{1*}

¹京都大学防災研究所

¹DPRI, Kyoto Univ.

1992年に日本南極地域観測隊による撮影された空中写真と2002年にヘリコプターから撮影したビデオ画像の比較により、南極リュッツォ・ホルム湾宗谷海岸域の氷床末端変動検出を試みた。ビデオ画像は、ビデオファイルを動画ソフトにより静止画像として取り込み、それらの画像をGISにより接合し、モザイク画像とした。用いたビデオカメラの解像度は、動画が一フレーム15万画素であるが、取り込まれた静止画像は、適当なペアを選択することで、ステレオ観察が可能であった。氷床末端の変動検出を実施した結果、ラングホブデ地域では、1992年からの10年間で、東雷鳥池の水位が低下していること、ラングホブデ氷河表面の融解水が原因と考えられる池状の部分が拡大していること、ラングホブデ左岸部では、サイドモレーンおよび露岩部が拡大していることが認められた。また、この部分の空中写真判読により氷河表面が低下していることが認められた。

キーワード:氷床,質量収支,空中写真

Keywords: Ice sheet, Mass balance, Repeat photography